



東京下谷敬寄屋町力カ曳松田与兵三ヲ惣領帳アリ使今年  
 廿才あつが腕やくらぬ大新定明治八年五月の頃身行造り五月あつ  
 僱見を呑員ひ出行りし帰りに来らば親ハ心も落つた彼方彼方を  
 尋迷ひ渚の路身の魚ぢぢる池の端あつ蕪あつ子の啼きを聞き  
 飛立つるうう両あふ  
 喜び抱き我々へ  
 りるあつこの行玉猶  
 るれども是の密まかりりりり  
 心よからぬ母あて奉る中ゆ主人の  
 赤きもと水ぶくれあつりりりり  
 眼を出され又交所の月日を凡目へん  
 の着扱を奪ひ鯨の置きり事あらわな  
 親は兵五の顔り中此始末実あつは  
 北本の元の宛をふさんと最寄の評定報知の紙上六百七十三号に記す

大阪日々新聞  
 第十七号

高土山松  
 後山松  
 あり山松

大阪錦画日々新聞紙17号 文庫10-8068-14

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

